

教頭の小部屋

2021.5.18 巻03



緊急事態宣言延長

本校校長が、学校便り第4号で「ドラえもんの世界を生き抜くために」と書かれていました。私たちが小さいころ思い描いてきた未来が今まさにやってきて、さらにこれからの未来は予測困難な時代になっていきます。その時代を生き抜くために、受動的ではなく、自分で考え学び続けることが大切だと書かれていました。

校長の高尚な話の内容とはかけ離れるのですが、私も小学生の頃、ドラえもんの四次元ポケットから出される夢のような道具に、ハートを鷲掴みにされていました。小中学生の夏休み終了間際、終わらない宿題を前に頭を抱えながら「こんな時、ドラえもんがいたら、タイムマシーンで、夏休み初日に戻って…。いやいや、それはまたゴロゴロしてしまうな。そやっ、暗記パンで…。いや、暗記パンでは宿題は終わらん。いっそのことタケコプターで逃避行するか。ああ、のび太はドラえもんがいてええなあ。」と、毎年のように貴重な時間を無駄にしていたのは私だけではないはず。でものび太もドラえもんに頼らないという話があったことを憶えています。

ドラえもんに1日休日をあげたのび太。ドラえもんを呼び出す緊急スイッチを手渡されていたが、のび太はいつもの空き地で「今日一日。僕に降りかかる災難は、ドラえもんに頼らず自分で乗り切る!」とジャイアン、スネ夫、しずかちゃんに大きな声で宣言する。その宣言に「偉いわ、のび太さん!」としずかちゃんも思わず感心の声をあげるが、ジャイアンとスネ夫は「う〜ん。のび太のくせに!なんだかむしゃくしゃするから殴る!」と…。その後のび太は、ジャイアンに追いかけれ、スネ夫にだまされ犬に追いかけれ、犬から逃げるために木に登り、降りることもできずに屋根に飛び移り、屋根から転げ落ち、落ちたところは走り出そうとするトラックの荷台。トラックが止まったときには隣町。「家に帰らなくちゃ!」と歩き出したとたん隣町のガキ大将にぶつかり…。それでもドラえもんを呼ぶボタンを押さないのび太の心意気に感心して、ジャイアンとスネ夫がガキ大将から助けてくれたのでした。

ドラえもんがいなければ、のび太君はこんな毎日を過ごしているのでしょうか…。まるで漫画ですね。

兵庫県に発出されていた緊急事態宣言が延長され、今現在、コロナ感染症の影響でのび太のようなドラマティックで変化に富んだ毎日を送ることはできません。初めて出された緊急事態宣言時のような危機感も薄れ、緊張感や変化のない毎日を送っている人も多いはず。今は感染拡大を食い止め、安心安全な暮らしを取り戻すことが第一優先ですが、そんな毎日の中でも、学校生活や学びは続いています。今はじっと我慢。将来、ドラえもん(保護者)に頼らず自分で困難を乗り切ったり、自分の将来を切り開いたりするためにも、我慢の生活の中で、今できることをコツコツと頑張るしかない。今一度、自分の生活を振り返ってみてください。がんばれ狭中生!

イスラエルではワクチン接種が進み、マスク着用義務が解除されたという報道もありました。長いトンネルの先に、小さく光る出口のような報道でした。私たちに日常が戻ってくる日も、そう遠くはないかもしれません。

